6・15を70年安保を国際連帯で粉砕するための斗争宣言とせよ！

日米安保協議委員会開催阻止！日米軍事専門委員会設置反対！人民抑圧の基地沖縄の人民解放！
ベトナム革命への圧殺、絞殺を許すな！　日・米・アジア人民抑圧の安保を国際斗争で粉砕せよ！

革命
15号　2頁　20円
毎月1日・15日発行
発行所
東京都豊島区西池袋3-4-2
現代社
電話　東京（983）3429
振替口座東京一142518
編集発行人　田中五郎
購読料
6ヶ月12回送料共300円

全学連運動の流動と方向―安保斗争からの召還と敗北主義を許すな！

四月までの闘争に対する総括的な突破口創造をとおしてのプロレタリアート統一戦線の保持を獲得してきた我々学生戦線の闘いは、四月からのまさに歴史的に異なった様相と事態に直面している。

すなわち、一九六八の激動を疾風しながら、三里塚闘争が、いま安保闘争を本格的に展開すべき位置を持つ闘争として、我々は、学生運動における一つの問題点を示しているとも言える。

ひとことでいうならば、他の諸闘争からの召喚という事態である。

過去を総括し、新たな出発を期すべき時である。

我々は、学生運動における一つの問題点を示しているとも言える。

我々は、唯一、反戦、偽装的和平攻勢、王子民族闘争、そして反安保闘争、教育問題等々、最も鮮明に結集し、大衆に日本帝国主義の攻撃を暴露し、闘いぬいてきた。そして、我々は、学生運動を闘争の前進を示すものとしてきたのである。

日共党員の組織的動揺はこうである。

「あなたは安保闘争づくり」＝「闘争要求運動」と、「ベトナム人民支援運動」と、「ベトナム人民支援運動」＝「和平」推進運動という二つの課題を行なうと、戦闘的には社会党の中間路線と呼ぶしつ、（六・一九「改憲阻止青年委」への参加）

七十年安保の軍事的側面のみ、しかも絶対的主要面、反安保・ナショナリズムの観点からの闘争を切り捨てつつある

六月闘争の戦略的展望は何か？

（一）帝国主義的矛盾の深化とファシズムのメルクマール

「ヨーロッパを疾風が行く、共産主義という疾風が――しかし二十世紀後半のヨーロッパには当面「ファシズムという疾風が吹いている」。疾風は、第三帝国の仮面をかぶって、しかもその心臓部は、ますます強力に、ますます凶暴に成長している。ドゴールが「ドゴールかカオスか」と叫び、ドゴールが「ドゴールかカオスか」と絶叫しながら、一方でそうした国内における「疾風」という「呼び水」として、フランスの「民族至高」は、はたいを巻き、剣を振り込んだ。フランスのみならず、西ヨーロッパにおいても全ヨーロッパ規模で浸化する帝国主義的矛盾の波をうけて、社会をゆさぶり、ファシズムの波が、ますます高まっている。

「平和のパリ」から「闘うパリ」への変貌に、そしてファシズム体制の深化、後発国型資本主義の「ドゴール的ファシズム」への変貌に、そして「ドゴールかカオスか」の叫びに、「ドゴールかカオスか」と絶叫しながらも、ドゴールが、「ドゴールかカオスか」と絶叫しながらも、ドゴールが、「ドゴールかカオスか」と絶叫しながらも、ドゴールが